

調達要求番号：6NN31A24105

陸 上 自 衛 隊 仕 様 書		
物品番号	仕 様 書 番 号	
駐屯地空調機等保守点検役務	1 0	
	作 成	令和 8 年 3 月 1 3 日
	変 更	
	作成部隊等名	船岡駐屯地業務隊

1 総則

1.1 適用範囲

本仕様書は、船岡駐屯地において実施する駐屯地空調機等保守点検役務に適用する。

1.2 法令等

本仕様書、メーカー仕様書

2 役務概要

2.1 役務場所

宮城県柴田郡柴田町大字船岡字大沼端 1－1 陸上自衛隊船岡駐屯地
別図「案内図」のとおり。

2.2 役務対象

船岡駐屯地内の空調設備の保守点検及びVベルト交換を行う。
別紙第1「空調設備一覧」のとおり。

2.3 役務内容

冷房（一部暖房）のシーズンイン点検、オン点検及びオフ点検等を実施する。
・冷房期間：令和 8 年 7 月 1 日(水)から令和 8 年 9 月 2 0 日(日)までの間
・暖房期間：令和 8 年 1 1 月 1 5 日(日)から令和 9 年 3 月 3 1 日(水)までの間
※シーズンイン点検は、1 ヶ月前に完了させる。やむを得ず困難な場合は、官側と事前に調整し、冷房及び暖房開始にゆとりを持って点検を完了させる。

2.3.1 一般事項

- 役務場所においては官側の指示に従い行動し、指示があった場所以外への立入は禁止とする。
- 作業は平日 08:15～17:00 の間を基本とし、やむを得ずそれ以外の時間帯に作業を実施しようとする場合は、前日正午までに残業届（4 部）を提出し、承諾を受けた後とする。
- 作業に使用する資機材等は全て請負者側において準備する。

- d) 役務場所内外の施設を破損又は汚損させないよう十分注意する。また、破損・汚損が生じた場合は速やかに官側へ報告し、請負者側の負担において原状に回復する。
- e) 役務実施中の安全管理については十分に留意し、万一事故が発生した場合は速やかに官側へ報告する。なお、事故保障はすべて請負者側の負担とする。
- f) 作業後は周辺の片付け、清掃を行うこと。
- g) 軽微な変更については契約額の増額は行わない。

2.3.2 特記事項

- a) 請負者は契約後速やかに工程表を提出し、承認を受けた後に点検を実施すること。
- b) 保守の範囲
 - 1) 汚れ、詰まり、付着等がある部品又は点検部の清掃
 - 2) 取付け不良、作動不良、ずれ等がある場合の調整
 - 3) ボルト、ねじ等で緩みがある場合の増締め
 - 4) 次に示す消耗部品の交換又は補充
 - ・潤滑油、グリス、充填油 等
 - ・ランプ類、ヒューズ類
 - ・パッキン、ガスケット、Ｏリング類
 - ・精製水
 - 5) 接触部分、回転部分等への注油
 - 6) 軽微な損傷がある部分の補修
 - 7) 塗装（タッチペイント）
 - 8) ファンベルトの摩耗、張力の点検等を行い、必要に応じて適正張力へ調整
 - 9) その他これらに類する軽微な変更
 - 10) 部品交換等

下記に示す部品の交換を実施する。

表 部品交換等一覧表

作業箇所	対象機器	作業内容	規格	数量	単位
2 6 1 号建物	冷却塔 荏原シンワ製 型式：SDW-U100ASD	・冷却塔部品交換 V ベルト	・ 3R-3V-600 (又は同等品以上)	1	本
—————	—————	・ 試運転調整	—————	1	式

- c) 点検の範囲

別紙第 1 「空調設備一覧」、別紙第 2 「点検項目及び周期」のとおり。
- d) 保守点検中に不具合事項を発見した場合は、速やかに官側へ報告し指示を仰ぎ、必要に応じて修理見積を提出する。
- e) 試運転は、点検及び冷房・暖房の切替が終了した段階において、官側立会のもと試運

転を実施する。

- f) 本役務の対象である空調設備に異常が発生した場合は、点検周期に関らず官側の求めに応じて技術員を派遣し、点検を実施する。また、必要に応じて修理見積を提出する。

3 品質保証

3.1 完了検査

完了検査は、報告書類の確認をもって実施する。不合格の場合は直ちに手直しを行い、再度検査を受け合格しなければならない。

3.2 報告書類

報告書類の内容は次による。

- a) 着手届
- b) 工程表（計画、実施）
- c) 役務日報
- d) 完了届
- e) 整備点検報告書

様式は任意とする。

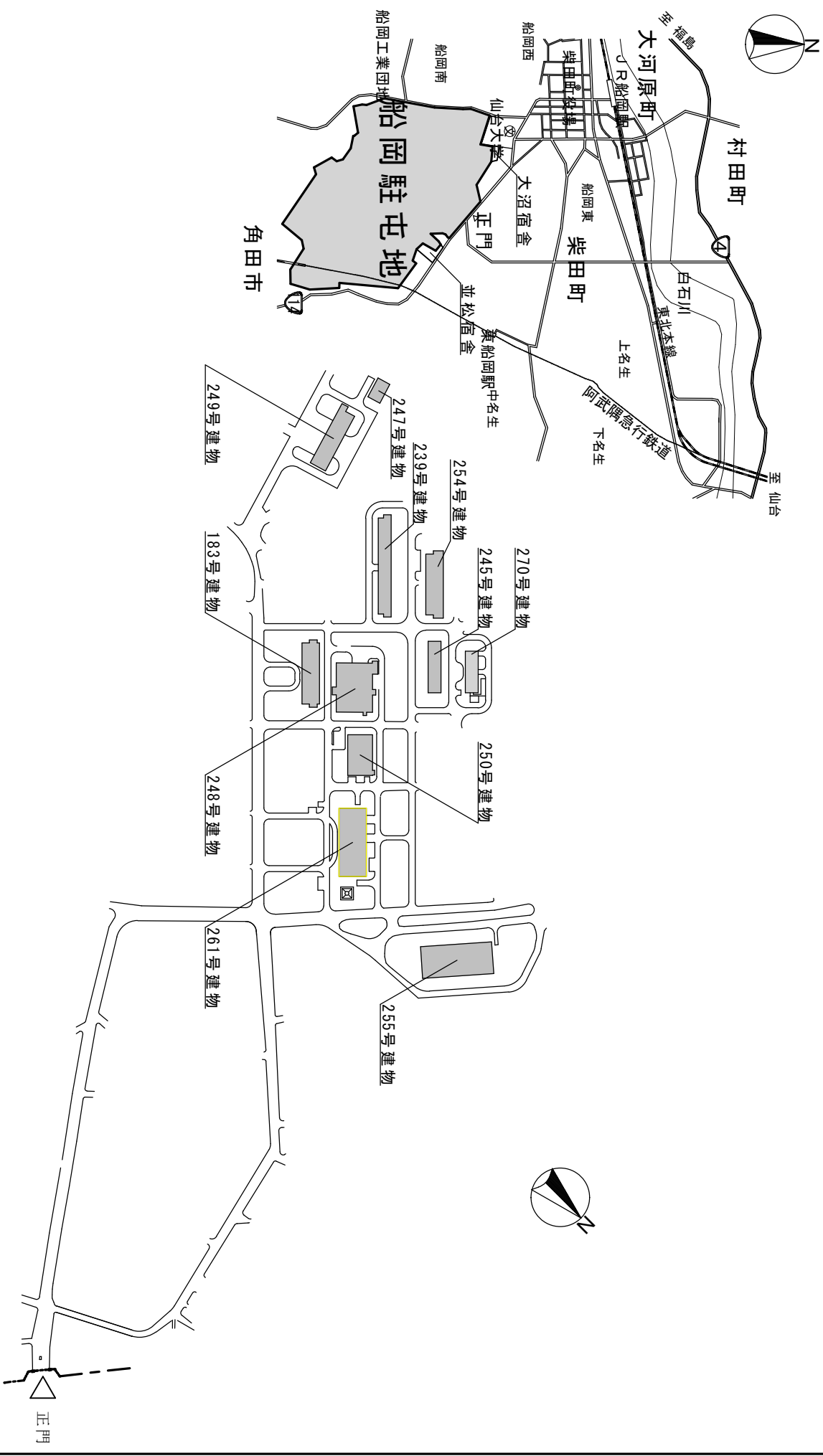
- f) 作業写真

次の要領にて撮影し、写真帳として整理のうえ提出する。

- 1) 撮影場所
 - ・作業の要所
 - ・役務後物陰となる箇所
 - ・監督官の検査を受ける搬入材料
 - ・官側の指示する箇所
- 2) 管理事項
 - ・不必要な撮影は禁止する。
 - ・役務終了後、データを確実に消去する。

4 その他

役務に際し、本仕様書に疑義が生じた場合は速やかに官側へ報告し、協議する。また、本仕様書に指示なき場合においても技術上当然なすべき事項は積極的に実施する。



件名	駐屯地空調機等保守点検役務	図面番号
図名	案内図	縮尺
陸上自衛隊船岡駐屯地業務隊		令和8年3月

空調設備一覧

5
別紙第1

1 吸収式冷凍機

建物名	設 備	メーカー	型 式	数 量	冷房能力 (kw)	作業周期			備 考
						IN	ON	OFF	
第2隊舎 【No.239】	吸収式冷凍機	川崎重工	SLB-120A	1	351.2	○	○	○	吸収溶液分析
	冷却塔	荏原ソノ	SDW-U125ASD密閉型	1	818.0	○		○	水質検査
	冷却水ポンプ	荏原製作所	100×80FS4J57.5	1		○	○	○	
	冷水ポンプ	荏原製作所	80×65FS4J55.5	1		○	○	○	

2 吸収冷温水機ユニット

建物名	設 備	メーカー	型 式	数 量	冷房能力 (kw)	作業周期			備 考
						IN	ON	OFF	
本部庁舎 【No.261】	吸収冷温水機	矢先エナジーシステム	CH-KG100STU55	1	313.0	○	○	○	吸収溶液分析
	冷却塔	荏原冷熱システム	SDW-U100ASD密閉型	1	652.3	○		○	水質検査
	コンパクト形空調機	暖冷工業	DH-50CA床置型(インバーター対応)	1	15.6	○			1F系統(ACC-1)
	ユニット形空調機	暖冷工業	DHU-230FM-K横型床置(インバーター対応)	1	66.6	○			2F系統(ACU-1)
			DHU-160FM-K横型床置(インバーター対応)	1	53.3	○			3F系統(ACU-2)
			DHU-200FM-K横型床置(インバーター対応)	1	59.7	○			4F系統(ACU-3)
	冷却水ポンプ	荏原製作所	100×80FS4K515	1		○	○	○	
	冷温水1次ポンプ	荏原製作所	80×65FS4H53.7	2		○	○	○	
	冷温水2次ポンプ	荏原製作所	80×65FS4J55.5	2		○	○	○	

3 小型吸収冷温水機ユニット

建物名	設 備	メーカー	型 式	数 量	冷房能力 (kw)	作業周期			備 考
						IN	ON	OFF	
10群隊舎 【No.183】	吸収冷温水機	日立アプライアンス	HAU-WL80EX	1	176.0	○	○		吸収溶液分析/冷暖房
	冷却塔	荏原冷熱システム	SDW-U50ASD 密閉型	1	326.2	○		○	水質検査
	ユニット型空調機	新晃工業	SHD120V(SV-5/SV-7/SV-9)	3	34.3	○			
	冷却水循環ポンプ	川本製作所	GEK-805M-2MN5.5	1		○	○	○	
	冷水循環ポンプ	川本製作所	GEJ-655M-2MN5.5	1		○	○	○	
	温水循環ポンプ	川本製作所	GEK-655M-2MN5.5	1		○	○	○	

4 電気式水冷チリングユニット

建物名	設 備	メーカー	型 式	数 量	冷房能力 (kw)	作業周期			備 考
						IN	ON	OFF	
WAC隊舎 【No.245】	水冷チリングユニット	三菱電機	MCRV-P300E	1	30.0	○		○	
	冷却塔	荏原ソノ	SBC-10ESS開放型	1	41.9	○		○	水質検査
	冷却水ポンプ	荏原製作所	50×40FS4J51.5	1		○	○	○	
	冷水ポンプ	荏原製作所	32×32FS2F5.75	1		○	○	○	
	温水ポンプ	荏原製作所	32×32FS2F5.75	1		○	○	○	
食堂厨房 【No.248】	水冷チリングユニット	ダイキン	UWXA180GBR	1	185	○		○	隊員食堂
	冷水ポンプ	荏原製作所	65×50FS4J53.7	1		○	○	○	
	外調機	暖冷工業	DHU-100	1		○			幹部食堂系統
			DHU-200S	1		○			幹部食堂系統

5 電気式空冷チリングユニット

DS隊舎 【No.254】	空冷チリングユニット	ダイキン	UWXY118FBRR	2	118	○		○	
	冷却水ポンプ	荏原製作所	100×80FS4J57.5F	1		○	○	○	
	温水1次ポンプ	荏原製作所	100×80FS4J55.5AF	1		○	○	○	
	温水2次ポンプ	荏原製作所	80×65FS4H53.7E	1		○	○	○	
	冷水1次ポンプ	荏原製作所	80×65FS4J55.5F	1		○	○	○	
	冷水2次ポンプ	荏原製作所	65×50FS4J52.5F	1		○	○	○	

空調設備一覧

6
別紙第1

6 空気熱源ヒートポンプ式パッケージエアコン

建物名	設備	メーカー	型式	数量	冷房能力 (kw)	作業周期			備考
						IN	ON	OFF	
厚生センター 【No.250】	室外機	ダイキン	RDYJ450LA5	2	45.0	○		○	HP-1/HP-4
			RDYJ355LA5	2	35.5	○		○	HP-2/HP-3
	室内機	ダイキン	FXYFJ140KA	1		○		○	HP-3-1
			FXYFJ90K	2		○		○	HP-2-4/HP-4-3
			FXYFJ80KA	2		○		○	HP-1-4/HP-2-3
			FXYFJ71KA	2		○		○	HP-3-2
			FXYFJ56KA	3		○		○	HP-1-1/HP-2-1
			FXYFJ45KA	4		○		○	HP-1-2/HP-2-2
			FXYFJ36KA	11		○		○	HP-1-3/HP-1-5/HP-3-4/HP-4-1/HP-4-4
			FXYFJ28KA	2		○		○	HP-3-3/HP-4-2
	蓄熱タンク	オーケー器材	KWG0802C	2		○		○	
整備工場 【No.255】	室外機	三菱電機	PUHY-P560MKH-E	1	56.0	○		○	ACP-1
	室内機	三菱電機	PLFY-P45LMP-E1	2		○		○	ACP-1-1/ACP-1-4
			FXYFP45NB	1		○		○	ACP-1-1/ACP-1-4
			FXYFP45NB	2		○		○	ACP-1-2/ACP-1-3
			PLFY-P56LMP-E1	3		○		○	ACP-1-6/ACP-1-7
			PLFY-P71LMP-E1	2		○		○	ACP-1-8
	蓄熱タンク	三菱電機	STY-P26M-E	1		○		○	
食堂厨房 【No.248】	室外機	三菱電機	PUHY-RP355DMG3	1	35.5	○		○	
	室内機	三菱電機	PLFY-P71EMG3	3	7.1	○		○	事務室/男子控室
			PLFY-P22LMG3	1	2.2	○		○	仮眠室
			PLFY-P90EMG3	1	9.0	○		○	女子控室
整備実習場 【No.249】 倉庫 【No.247】	室外機	三菱電機	PUHY-J160M-A	1	16.0	○		○	ACP-1
			PUHY-J280M-B	2	25.0	○		○	ACP-2/ACP-3
	室内機	三菱電機	PLFY-J45GM-A	6		○		○	ACP-1-1/ACP-1-2/ACP-2-1
			PLFY-J56GM-A	1		○		○	ACP-2-2
			PLFY-J36GM-A	1		○		○	ACP-3-1
			PLFY-J71GM-A	2		○		○	ACP-3-2
WAC隊舎 【No.270】	室外機	日立クローハルソリューションズ	RAS-AP160SSM	1	16.0	○		○	ACP-2
			RAS-AP280SG2	1	28.0	○		○	ACP-3
			RAS-AP224SG1	1	25.0	○		○	ACP-4
	室内機	日立クローハルソリューションズ	RCI-GP36K3	5		○		○	ACP-2/ACP-3
			RCID-GP28K2	1		○		○	ACP-2
			RCID-GP36K2	1		○		○	ACP-3
			RCID-GP22K2	2		○		○	ACP-3
			RCID-GP45K2	1		○		○	ACP-4
			RCID-GP140K2	1		○		○	ACP-4

点検項目及び周期

1 吸収式冷凍機等（シーズンイン・オン・オフ点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備考
		IN	ON	OFF	
1 基礎・固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。	○		○	
	② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みを点検する。	○		○	
	③ 取付状態を確認する。		○		
2 外観点検					
a 本体	腐食、変形、破損等の有無を点検する。	○	○	○	
b 保温材・保冷材	損傷及び脱落の有無を点検する。	○		○	
3 付属品					
a 温度計・圧力計	① 正常値を指示していることを確認する。	○	○	○	
	② 取付部等の漏れの有無を点検する。	○	○	○	
	③ 汚れ及び損傷の有無を確認する。	○	○	○	
4 気密確認	機内圧力が規定値以内であることを確認する。	○			
5 電気系統					
a 操作回路・電動機回路	絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。	○		○	
b 端子	緩み、変色及び破損の有無を点検する。	○		○	
c タイマー	起動制限、遅延、その他タイマーが設定値で作動することを確認する。	○			
d サーマルリレー	キャンドポンプ及び抽気ポンプ用サーマルリレーの設定値を確認する。	○			
e 電極棒	① 電極棒の機能を確認する。	○	○		
	② 必要に応じて電極棒を抜き取り、き裂又は折損の有無を点検する。			○	
f 操作盤	盤内の汚れ、異物の付着、緩み及び変形の有無を点検する。	○			
g 接地	① 断線及び緩みの有無を点検する。	○			
	② 接地抵抗を測定し、その良否を確認する。	○			
6 保安装置					
a 作動試験	リレー及び保護装置が規定値で作動することを確認する。	○			
b インターロック	作動の良否を点検する。	○			
7 蒸気圧力調整弁	① リンク装置の緩みの有無を点検する。	○	○		
	② 実作動及び擬似回路により作動させ、その良否を点検する。	○	○		
8 冷水及び冷却水系統	① 漏れの有無を点検する。	○			
	② 弁の開閉の良否を確認する。	○			
	③ 冷水及び冷却水系統の各水室部に漏れの無いことを確認する。	○			
9 運転調整					
a 音・振動	異常の無いことを確認する。	○	○		
b 電圧・電流	① 運転時における主電源電圧の変動が、規定値内にあることを確認する。	○	○		
	② 運転電流が規定値以下にあることを確認する。	○	○		
c 電動機	電動機の回転方向が正しいことを確認する。	○			
d 自動制御	蒸気調整弁が設定温度で段階的に作動することを確認する。	○	○		
e 熱源	① 供給蒸気の一次圧力が規定の許容範囲内にあることを確認する。	○	○		
	② 非通電時に、蒸気制御弁にリークのないことを確認する。	○	○		
f 熱交換器	① 冷水及び冷却水の入口温度及び出口温度、溶液温度、凝縮濃度、蒸発温度等を測定し、その値が許容範囲内にあることを確認する。	○	○		
	② 不凝縮ガスの混入及び冷却管の汚れの有無を点検する。	○	○		

※ON点検は、7～9月の間に1回とする。

点検項目及び周期

1 吸収式冷凍機等（シーズンイン・オン・オフ点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備 考
		IN	ON	OFF	
10 真空気密					
a 抽気ポンプ	① 起動時に固着及び異常音がなく、抽気能力に異常のないことを確認する。	○	○	○	
	② ベルトの張りの良否及び油面の適否を点検する。	○	○	○	
b 抽気系統	抽気用弁を手動で全開にし、真空計の変化から開通していることを確認する。	○	○	○	
c パラジウムセルユニット	パラジウムセル部の焼損及び劣化の有無を点検する。	○	○	○	
d リーク試験	抽気ポンプで機内に不凝縮ガスのないことを確認する。	○	○	○	
e 真空引き	抽気ポンプを用いて機内を所定の圧力まで抽気する。	○			

※ON点検は、7～9月の間に1回とする。

2 小形吸収冷温水機ユニット（シーズンイン・オン点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備 考
		IN	ON	OFF	
1 基礎・固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。	○			
	② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みを点検する。	○			
	③ 取付状態を点検する。		○		
2 外観の状況	腐食、変形、破損等の有無を点検する。	○	○		
3 内部の状況					
a 燃焼室	燃焼室内の汚れを点検する。	○			
b 熱交換器	スケール付着の有無を点検する。	○			
4 付属品					
a 付属弁	弁の開閉の良否を点検する。	○	○		
5 動力盤	① 冷房又は暖房の切替が正しいことを確認する。	○			
	② 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。	○			
	③ 作動の良否を点検する。	○	○		
6 機内盤・遠隔操作盤	作動の良否を点検する。	○	○		
7 電気系統					
a 操作回路・ヒーター回路 電動機回路 【キャンドポンプ・バーナーモーター】	絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。	○			
b 端子	緩み、変色及び破損の有無を点検する。	○	○		
c サーマルリレー	キャンドポンプ及びバーナーモーター用サーマルリレーの設定値を確認する。	○			
d 温度調節器	所定の設定値で作動することを確認する。	○	○		
e 操作盤	盤内の汚れ、異物の付着、緩み及び変形の有無を点検する。	○			
f 接地	① 断線及び緩みの有無を確認する。	○			
	② 接地抵抗を測定し、その良否を確認する。	○			
8 保安装置					
a 作動試験	① リレー及び保護装置が規定値で作動することを確認する。	○			
b インターロック	② 作動の良否を点検する。	○			

※ON点検は、7～9月の間に1回とする。

点検項目及び周期

2 小型吸収冷温水機ユニット（冷房・暖房シーズンイン・オン点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備 考
		IN	ON	OFF	
9 燃焼装置					
a 燃料系統配管・弁	① 油燃料の場合は、油配管継手部並びにバーナー停止時のノズルチップからの油の滴下量を確認する。	○	○		
	② ガス燃料の場合は（社）日本冷凍空調工業会規格 J R A 4004（ガス吸収冷温水機安全基準）に定められた方法によりもれの量を確認する。	○	○		
	③ 弁の開閉の良否を確認する。	○	○		
b 燃焼監視制御装置	作動の良否を点検する。	○			
c バーナー	① 油燃料の場合は、炎口部を清掃する。	○			
	② 油燃料の場合は、ノズル、燃焼筒等の焼損及び変形の有無を点検する。	○			
	③ 直接点火のバーナーは、点火トランス、電極棒及び高圧リード線の損傷等の劣化、絶縁碍子のき裂の有無並びに絶縁の良否を確認する。	○	○		
d 火炎検知器	① 光電セル又は紫外線検出方式は、受光面の汚れき裂等の有無並びに絶縁の良否を確認する。	○	○		
	② フレームロッドの整流方式は、汚れ、絶縁碍子のき裂の有無並びに絶縁の良否を確認する。	○	○		
e ストレーナー	詰まり、損傷等の有無を点検する。	○	○		
f 地震感知器	小形吸収冷温水機ユニット運転時に作動テストを行い、自動的に燃焼が停止することを確認する。	○			
10 冷温水及び冷却水系統	① 出口及び入口の圧力損失が規定値内にあることを確認する。	○			
	② 各水室部に水漏れのないことを確認する。	○			
	③ 暖房時前の場合は、冷却水系の水抜きを確認する。	○			
11 運転調整					
a 音・振動	異常のないことを確認する。	○	○		
b 電圧・電流	① 運転時における主電源電圧の変動が、規定値内にあることを確認する。	○			
	② 運転電流が規定値以下であることを確認する。	○	○		
c 温度制御	設定温度で作動することを確認する。	○	○		
d 燃焼状態	① 正常に着火することを確認する。	○	○		
	② フレーム電流を測定し、その良否を確認する。	○	○		
	③ 排出ガス中の酸素濃度及び一酸化炭素濃度、排ガス温度、下フット、燃料圧力、燃料消費量等を測定し、その値が規定の許容範囲内にあることを確認する。なお、油だきはスモークスケールの有無を点検する。	○	○		
e 電動機	回転方向が正しいことを確認する。	○			
f 熱交換器	① 冷水及び冷却水の入口温度及び出口温度、溶液温度、凝縮濃度、蒸発温度等を測定し、その値が許容範囲内にあることを確認する。	○	○		
	② 不凝縮ガスの混入及び冷却管の汚れの有無を点検する。	○	○		
12 真空気密	① 抽気ポンプで機内の不凝縮ガスを採取し、規定値以下にあることを確認する。	○	○		
	② パラジウムセル部の焼損及び劣化の有無を点検する。	○	○		
13 冷媒・吸収剤	① 攪拌した溶液を適量採取し、腐食防止剤濃度及びアルカリ濃度が規定の許容範囲内にあることを確認する。		○		
	② 溶液に汚れのないことを確認する。	○	○		

※ON点検は、7～9月の間に1回とする。

点検項目及び周期

3 冷却塔（シーズンイン・オフ点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備 考
		IN	ON	OFF	
1 基礎・固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。	○			
	② 基礎ボルトの緩み及び劣化の有無を点検する。	○			
	③ 防振装置の損傷等の有無を点検する。	○			
	④ 防振ストッパーの緩み及び劣化の有無を点検する。	○			
2 外観の状況					
a 本体	損傷、変形及び汚れの有無を点検する。	○		○	
b 散水装置	① 損傷、変形、さび及び汚れの有無を点検する。	○		○	
	② 散水穴の目詰まりの有無を点検する。	○		○	
	③ 散水管の回転が円滑であることを確認する。	○		○	
c 熱交換器	コイルの汚れ、損傷等の有無を点検する。（密閉形に限る）	○		○	
d エリミネーター	損傷、変形及び目詰まりの有無を点検する。	○		○	
e ルーバ	損傷、変形及び目詰まりの有無を点検する。	○		○	
f 充填材	① スケール等の付着の有無を点検する。	○		○	
	② 目詰まりの有無を点検する。	○		○	
	③ 座屈、変形等の有無を点検する。	○		○	
g 架台	① 損傷、変形等の有無を点検する。	○		○	
	② 固定金具の劣化及び組立てボルトの緩みの有無を点検する。	○		○	
h 梯子・点検扉	損傷、変形、腐食等の有無を点検する。	○		○	
3 水槽					
a 本体	① 内外面の損傷、変形及び汚れの有無を点検する。	○		○	
	② 水漏れの有無を点検する。	○		○	
	③ 水位が規定の位置にあることを点検する。	○			
b 給水装置	ボールタップ等が確実に作動することを確認する。	○		○	
c ストレーナー	目詰まり、損傷等の有無を点検する。	○		○	
d フレキシブルジョイント	接続部の緩み、腐食等の有無を点検する。	○		○	
4 送風機					
a 羽根車	① 損傷、腐食、汚れ等の有無を点検する。	○		○	
	② 回転に支障のないことを確認する。	○		○	
b ファンケーシング	損傷、腐食等の有無を点検する。	○		○	
c 軸受	① 軸が円滑に回転することを確認する。	○		○	
	② 油量の適否を確認する。	○			
d 電動機	① 損傷、腐食等の有無を点検する。	○			
	② 円滑に回転することを確認する。	○		○	
	③ 絶縁抵抗値を測定し、その良否を確認する。	○			
e ベルト	① 張り具合の適否を確認する。	○		○	
	② 損傷及び磨耗の有無を点検する。	○		○	
f プーリー	損傷、磨耗等の劣化の有無を点検する。	○		○	

点検項目及び周期

3 冷却塔（シーズンイン・オフ点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備 考
		IN	ON	OFF	
5 散水ポンプ					
a 本体	汚れ、損傷、腐食等の有無を点検する。（密閉形に限る）	○		○	
b 電動機	① 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。（密閉形に限る）	○			
	② 回転方向が正しいことを確認する。（密閉形に限る）	○			
	③ 電流が定格値内であることを確認する。（密閉形に限る）	○			
6 凍結防止装置	① サーモスタットが設定値で作動することを確認する。	○			
	② ヒーターの作動電流が定格電流以下にあることを確認する。	○			
	③ ヒーターの絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。	○			
7 運転調整	① 電動機の回転方向が正しいことを確認する。	○			
	② 音及び振動に異常がないことを確認する。	○			
	③ 電源電圧の変動が規定値内にあることを確認する。	○			
	④ 運転電流が定格値以下にあることを確認する。	○			
	⑤ 散水管の回転数が許容範囲内にあることを確認する。	○			
	⑥ 散水が均一に分散していることを確認する。	○			
	⑦ 水槽の水位が運転前及び運転状態で適正であることを確認する。	○			
8 シーズンオフ時の保存	器内の水を完全に抜いたうえ保存する。			○	

4 空調用冷温水等循環ポンプ（シーズンイン・オン・オフ点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備 考
		IN	ON	OFF	
1 基礎・固定部	① 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みの有無を点検する。	○		○	
	② 防振材、ストッパー等の劣化及び緩みの有無を点検する。	○		○	
2 外観状況	① 腐食、損傷及び漏洩の有無を点検する。	○	○	○	
	② 軸継手ゴムの損傷等の有無を点検する。	○		○	
	③ ベルトの損傷等の有無を点検する。	○	○	○	
	④ 芯出しの良否を点検する。	○		○	
	⑤ ポンプの吸込圧力及び吐出圧力が許容範囲内にあることを確認する。	○	○	○	
	⑥ 軸封の漏水状態を点検する。	○		○	
3 電動機	① 電動機が外部より調査できる場合は、発熱の異常の有無を点検する。	○	○	○	
	② 回転方向が正しいことを確認する。	○			
	③ 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。	○		○	
	④ 運転電流が定格値以下にあることを確認する。	○	○	○	
4 フート・逆止弁	開閉状態の良否を点検する。	○		○	
5 圧力計、連成計又は真空計	① 腐食及び損傷の有無を点検する。	○			
	② 指示値が適正であることを確認する。	○			
6 運転調整	① 運転時における電圧変動が規定値内であることを確認する。	○			
	② 運転電流が定格値以下にあることを確認する。	○			
7 ニードル弁	① ニードル弁の全開放（規定開度へ戻し、弁を確認すること。）	○		○	
	② ドレンフラッシング（一定時間開放）	○		○	

※ON点検は、7、8、9月の計3回とする。

点検項目及び周期

5 水質管理（239号隊舎の冷却塔水質管理は含む）

点検項目	点検内容	作業周期			備考
		IN	ON	OFF	
1 水質管理					
a シーズンイン作業	ストレーナー、ダートトラップ等の水回路の水洗いを2回行う	○			
b シーズンオン作業	① 水質ガイドライン項目のうちpH及び電気伝導率について測定を行い、その値が基準値に適合することを確認する。		○		
	② pH又は電気伝導率の測定が基準値に適合しない場合は水質ガイドラインの全ての項目について測定を行い、腐食又はスケール生成の傾向の有無を検査する。		○		
	③ 冷却水接水部に腐食傾向がある場合は、次の措置を講じる。 ・冷却水を入れ換える。 ・冷却水の塩素イオン濃度を指標として濃度倍数を3倍以下に保持するようにブロー量を調節する。 ・適正なインヒビターを使用する。		○		
	④ スケール生成傾向がある場合は、上記によるほか、次の場合には、ブラシ洗浄又は化学洗浄を行う。 ・冷媒の凝縮温度と冷却水出口温度の差が大きくなった場合。 ・冷媒の圧力上昇又は高圧カットが起こった場合。		○		
	⑤ 冷却水がバクテリア、藻等に汚染されている場合は上記④による。		○		

※ON点検は、7、8、9月の計3回とする。

6 ユニット形空気調和機・コンパクト形空気調和機（シーズンイン点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備考
		IN	ON	OFF	
1 基礎・固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。	○			
	② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みの有無を点検する。	○			
	③ 防振材、ストッパー等の劣化及び緩みの有無を点検する。	○			
2 外部の状況					
a 本体	腐食、変形、破損等の有無を点検する。	○			
b 保温材・吸音材	損傷及び脱落の有無を点検する。	○			

点検項目及び周期

7 送風機（ユニット形空気調和機）（シーズンイン点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備 考
		IN	ON	OFF	
1 基礎・固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。	○			
	② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みの有無を点検する。	○			
	③ 防振材の破損等の有無を点検する。	○			
	④ 天井吊りの場合の脱落防止、吊り支持等の金具の緩み及び腐食の有無を点検する。	○			
2 外観点検	① 汚れの有無を点検する。	○			
	② 腐食及びボルトの緩みの有無を点検する。	○			
3 電動機	① 電動機が外部より調査できる場合は、発熱の異常の有無を点検する。	○			
	② 回転方向が正しいことを点検する。	○			
	③ 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。	○			
	④ 運転電流が定格値以下にあることを確認する。	○			
4 軸受	発熱、異常音及び異常振動の有無を点検する。	○			
5 Vベルト	緩み、磨耗、損傷等の有無を点検する。	○			
6 Vベルトカバー	変形、損傷等の有無を点検する。	○			
7 Vプーリ	① 磨耗、損傷等の有無を点検する。	○			
	② 芯出しの良否を点検する。	○			
8 羽根車	① 汚れ、変形、腐食等の有無を点検する。	○			
	② ボルトの緩みの有無を点検する。	○			
	③ ケーシング等に接触していないことを確認する。	○			
9 運転調整	① 運転時における電圧変動が規定値内であることを確認する。	○			
	② 運転電流が定格値以下であることを確認する。	○			

点検項目及び周期

8 電気式水冷チリングユニット（シーズンイン・オフ点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備 考
		IN	ON	OFF	
1 基礎・固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。	○		○	
	② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みの有無を点検する。	○		○	
	③ 防振材、ストッパー等の劣化及び緩みの有無を点検する。	○		○	
2 外観点検					
a 本体	腐食、変形、破損等の有無を点検する。	○		○	
b 保冷材	損傷及び脱落の有無を点検する。	○		○	
3 内部の状況					
a 熱交換器	ファンコイルの汚れ、損傷等の有無を点検する。	○		○	
4 付属品					
a 温度計・圧力計	① 正常値を指示していることを点検する。	○		○	
	② 取付部等の漏れの有無を点検する。	○		○	
	③ 汚れ及び損傷の有無を点検する。	○		○	
b 安全弁	漏れの有無及び作動の良否を点検する。	○			
5 電気系統					
a 操作回路・動力回路	絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。	○		○	
b 端子	緩み、変色及び破損の有無を点検する。	○		○	
c クランクケースヒータ	① 温度の異常の有無を点検する。	○		○	
	② 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。	○		○	
d 操作盤	盤内の汚れ、異物の付着、緩み及び変形の有無を点検する。	○		○	
e 電磁開閉器	異常音及び劣化の有無を点検する。	○		○	
f 接地	① 断線及び緩みの有無を点検する。	○			
	② 接地抵抗を測定し、その良否を確認する。	○			
6 保安装置					
a 圧力開閉器	規定値で作動することを確認する。	○			
b 吐出ガス温度サーモ	作動の良否を点検する。	○			
c 断水リレー	作動の良否を点検する。	○			
d インターロック	作動の良否を点検する。	○			
e 冷水凍結防止サーモ	作動の良否を点検する。	○			
f 可溶栓	変形、破損等の有無を点検する。	○			
7 冷媒系統	① ガス漏れの有無を点検する。	○		○	
	② 配管の損傷、接触、磨耗、腐食等の有無を点検する。	○		○	
8 潤滑油系統	油の汚れの有無及び油量の適否を点検する。	○		○	
9 冷水及び冷却水系統	① 漏れの有無を点検する。	○			
	② 弁の開閉の良否を点検する。	○			
10 排水系統	通水試験を行い、流れに支障のないことを確認する。	○		○	
11 運転調整					
a 音・振動	異常のないことを確認する。	○			
b 電源電圧・電流	① 運転時における主電源電圧の変動が、規定値以下にあることを確認する。	○			
	② 主電流、圧縮機電流及び送風機電流が規定値以下にあることを確認する。	○			
c 冷媒ガス	高圧側及び低圧側の圧力、温度等の冷媒ガスの状態を把握するために必要な計測を行い、その値が許容範囲内にあることを確認する。	○			
d 冷凍機油	油圧、温度等を計測し、その値が許容範囲内にあることを確認する。	○			
e 熱交換状況	冷媒、冷却水及び冷水の温度等を点検し、熱交換状況が正常であることを確認する。	○			
f 自動制御	温度、圧力、容量及びタイマー制御が規定値で作動することを確認する。	○			
12 保存	① 水系統（排水系統を除く）は錆状況を確認し、錆除去剤を使用して錆を除去すること。	○			
	② 水系統（排水系統を除く）は水抜きをし、保存する。			○	

点検項目及び周期

9 空気熱源ヒートポンプ式パッケージエアコン（シーズンイン・オフ点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備 考
		IN	ON	OFF	
1 基礎・固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。	○		○	
	② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みの有無を点検する。	○		○	
	③ 防振材、ストッパー等の劣化及び緩みの有無を点検する。	○		○	
2 外観点検					
a 本体	腐食、変形、破損等の有無を点検する。	○		○	
b 保冷材	損傷及び脱落の有無を点検する。	○		○	
3 内部の状況					
a 熱交換器	ファンコイルの汚れ、損傷等の有無を点検する。	○		○	
4 付属品					
a 温度計・圧力計	① 正常値を指示していることを点検する。	○		○	
	② 取付部等の漏れの有無を点検する。	○		○	
	③ 汚れ及び損傷の有無を点検する。	○		○	
b 安全弁	漏れの有無及び作動の良否を点検する。	○			
5 電気系統					
a 冷暖房切替	冷房又は暖房切替スイッチ及び四路切換弁の作動の良否を点検する。	○		○	
b 操作回路・動力回路	絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。	○		○	
c 端子	緩み、変色及び破損の有無を点検する。	○		○	
d クラックケースヒータ	① 温度の異常の有無を点検する。	○		○	
	② 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。	○		○	
e 電磁開閉器	異常音及び劣化の有無を点検する。	○		○	
f 接地	① 断線及び緩みの有無を点検する。	○			
	② 接地抵抗を測定し、その良否を確認する。	○			
6 保安装置					
a 圧力開閉器	設定値で作動することを確認する。	○			
b 吐出ガス温度サーモ	作動の良否を点検する。	○			
c 断水リレー	作動の良否を点検する。	○			
d インターロック	作動の良否を点検する。	○			
7 冷媒系統	① ガス漏れの有無を点検する。	○		○	
	② 配管の損傷、接触、磨耗、腐食等の有無を点検する。	○		○	
8 潤滑油系統	油の汚れの有無及び油量の適否を点検する。	○		○	
9 水系統					
a 冷温水	漏れの有無を点検する。	○		○	
b 弁	開閉の良否を点検する。	○		○	
c 排水	通水試験を行い、流れに支障のないことを確認する。	○		○	
d ドレンパン	汚れ及び腐食の有無を点検する。			○	
10 送風機					
a Vベルト	磨耗、緩み及び損傷の有無を点検する。	○		○	
b 軸受	異常音、異常振動等の有無を点検する。	○		○	
c 羽根車	損傷等の劣化、振動等の有無を点検する。	○		○	

点検項目及び周期

9 空気熱源ヒートポンプ式パッケージエアコン（シーズンイン・オフ点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備 考
		IN	ON	OFF	
11 運転調整					
a プロペラファン	回転方向が正しいことを確認する。	○			
b 音・振動	異常のないことを確認する	○			
c 電源電圧・電流	① 運転時における主電源電圧の変動が、規定値内にあることを確認する。	○			
	② 主電源、圧縮機電流及び送風機電流が規定値内にあることを確認する。	○			
d 冷媒ガス	高圧側及び低圧側の圧力、温度等の冷媒ガスの状態を把握するために必要な計測を行い、その値が許容範囲内にあることを確認する。	○			
e 冷凍機油	油圧、温度等を計測し、その値が許容範囲内にあることを確認する。	○			
f 熱交換状況	冷媒、冷却風及び冷水又は温水の温度等を点検し、熱交換状況が正常であることを確認する。	○			
g 自動制御	温度、圧力、容量及びタイマー制御が設定値で作動することを確認する。	○			
12 除霜装置	暖房運転時の場合は、作動の良否を点検する。	○			

10 氷蓄熱ユニット（シーズンイン・オフ点検）

点検項目	点検内容	作業周期			備 考
		IN	ON	OFF	
1 基礎・固定部	① き裂、沈下等の有無を点検する。	○		○	
	② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みの有無を点検する。	○		○	
	③ 防振材、ストッパー等の劣化及び緩みの有無を点検する。	○		○	
2 タンク	水漏れ及び外面の錆、腐食、損傷等の有無を点検する。	○		○	
3 氷生成装置	熱交換器部分の汚れ、破損等の有無を点検する。	○		○	